

# びわ中学校便り



NO. 10

発行：平成26年 1月7日  
長浜市立びわ中学校

## 気づいてほしいあなたの幸せ

校長 谷口 国夫

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

さて、昨年5月、「日本一無口な講演」をしていただいた『たけさん』の絵はがきを改めて読み返しています。

### 気づいてほしいあなたの幸せは

目が見えること 耳が聞こえること  
話をできること 手が動くこと  
足で歩けること 呼吸ができること  
心臓が動くこと うんこもできること  
事故も起きず 大きな病気もせず  
何事も特別なことが起きず  
何でもないことがとても幸せなこと  
今の幸せを数えたら きっと数え切れない  
幸せとは手に入れるものでなく望むものでなく  
気づくもの (by たけさん)

たけさんは、脳梗塞で倒れ、言語障害、聴覚障害、右手麻痺、失語症という重い後遺症を残すことになりました。でも、当たり前にあると思っていたものをなくして、そのありがたさに気づいたたけさんは、すごいなあと思います。

人は生きていく限り、苦しいことも辛いこともあるけれど、何事もなく生徒の皆さんと、ごくふつうに新年を迎えることが幸せなのですね。

だから私も、あるものに目を向け、気づいたりうれしく思ったりできるようになることをささやかな目標としたいと思っています。私の周りには家族がいて、食べるものがあって、ゆっくり眠れる家があって、共に歩む仲間がいて、友人がいて……

## 1月 今月の予定

- 7日(火) 大掃除、始業式、発育測定3年生
- 8日(水) 全校実力テスト、3年生私立高校願書〆切り
- 9日(木) 発育測定1年・2年生
- 10日(金) いのちの日
- 13日(月) 成人の日(振替休日)
- 14日(火) カルタ大会1年生
- 15日(水) 生徒会による第1回生徒集会
- 16日(木) カルタ大会2年生
- 29日(水) 公立高校推薦選抜・特色選抜出願  
特別支援教育にかかる職員全員研修会

### お知らせ

#### 1月のスクールカウンセラー来校日は？

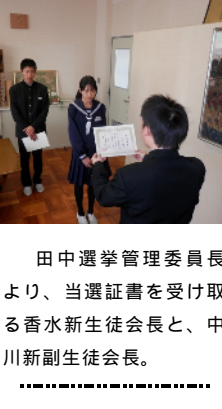
1月は、14日(火)午後と31日(金)10:00～の来校予定ですので、相談を希望される方は、事前に教育相談担当の河瀬教諭までご連絡ください。

### 生徒会発足・・・伝統を受け継ぎ、新たな伝統を築け！

昨年の暮れに、生徒会が発足し、12月20日に新旧生徒会の引継式が無事に行われました。以下に生徒会役員を紹介します。これまで先輩たちが築きあげてきた「びわ中生徒会」が、さらに躍進することを期待します。

(敬称略)

役職	氏名	役職	氏名
生徒会長	香水 晴貴	生活委員長	森川 翔月
副生徒会長	中川 靖菜	文化委員長	大野 真由
総務長	西村 祐輝	図書委員長	森 優花
総務	松井 絵里香	環境委員長	川瀬 将紀
"	福本 大晟	放送委員長	秋野 直哉
"	中川 安里沙	購買委員長	中川 富生
"	川邊 周矢	保健委員長	林 美穂
書記長	山口 萌恵	体育委員長	白井 乃映
書記	池寄 美央	給食委員長	澤村 彩美
"	橋本 美紅	ヘルパー委員長	玉村 優祐
会計	細井 星也		



## 12月のトピックス

### 校内人権週間に取り組む！

施し、朗読支援ボランティアの「そよかぜ」さんから、『忘れても好きだよおばあちゃん』と題して、認知症についての絵本の朗読をしていただきました。次に『アイヌの歴史と文化について』と題して、アイヌ人の差別問題について居壁太さんよりアイヌの独特な楽器の演奏も交えながら分かりやすく教えて頂きました。

最後に、生徒による人権を考えるパネルディスカッションとして、「仲間づくり、仲間はずし」をテーマに各学年の代表による



るパネラーから討論を重ね、充実した人権を考える週間となりました。生徒によるパネルディスカッションも今回で2年目となりましたが代表の生徒たちは、どの子も自分の考えや意見をしっかりと持ち、大勢の前で堂々と発言できることに、感心しました。参加した全校生徒たちも、パネラーから多くのことを学んだことでしょう。



12月2日～6日までは、「びわ中人権を考える週間」として、朝読書・

道徳・学活の時間に様々な学習に取り組みました。朝読書の時間には、全国中学生人権作文コンテストより優秀作品を何点か朗読し、人権について同世代がどのような考えや意見を持っているのかを学習しました。また、5日(木)には、リユートプラザにて人権講演会を

### 3年生に性教育を実施！

12月12日(木)には、3年生を対象とした性教育を実施しました。思春期の真っ只中である中学3年生。斉藤智孝助産士さんより、命を授かったこと、そして、今生きていることの素晴らしさ、悩み多き10代の性などについて、詳しく教えていただきました。命は、いろんな人と人の関わりの中であつなつていくもの。だからこそ、命をつなげていく自分を自覚するとともに、今後の自分の生き方を考える年頃であることを教えていただいた良い機会でした。

毎月12日は、「いのちの日」

保護者の皆様もご一読を！

びわ中学校では、6年前から毎月12日を「いのちの日」と定め、「いのち」や「人権」に関わる内容の読み物資料で、朝読書の時間に朗読をして学習しています。読み物資料は、教職員の研究部会で様々な書物や資料から、生徒たちの現状に照らし合わせ選定しているところです。このような取り組みは、県下においても珍しく、年間を通した継続的な取り組みに対して、昨年、教育関係団体から表彰をいただいたところです。今回、保護者の皆様にも生徒たちがどのような資料で学習しているのか、一読していただきたく、昨年学習した資料を紹介させていただきます。教科の勉強は勿論大切なことですが、それ以上に大切なことがこの資料から学びとれます。是非とも、親子のコミュニケーションとして、この資料をご家庭で話題にいただき、「いのち」や「人権」について考えていただけると嬉しく思います。

ニケーションとして、この資料をご家庭で話題にいただき、「いのち」や「人権」について考えていただけると嬉しく思います。

2013/12/12

## 「一滴の涙」ある夏の出来事

いのちの日資料

岡山県赤磐市立桜が丘中学校3年  
森永翔太（もりながしょうた）

家族旅行中の出来事。一軒の家が目飛び込んできた。その家は窓が割れ、建物はボロボロ。そして一番の衝撃は、「人殺し、出て行け、化け物」などの卑劣な言葉。塀に沢山のビラ。その時下を向いたおばあさんと若い女性が周りを見渡しビラを外し、逃げる様に家に入って行った。「何この家。何で？」と聞いた。

「息子が人殺しをした。当たり前だ。家族も同様な罪を受けるべき」と運転手が答えた。疑問に思ったがそのまま旅館に行った。

温泉に入り僕は、こんな幸せな時はあのおばあさん達無いだろうかと、ふとそんなことを思い、あの二人の悲しい顔が脳裏をかすめた。部屋に戻り皆に聞いてみた。「家族まで同じ罪を受けないと駄目？」反対に質問された。「翔太はどう思う？」僕の家ではまず僕自身の考えを述べて、それについて皆で話し合うのだ。すぐに返答出来なかった。すると祖父が「お前はもう十四歳。善悪は分かるはず。旅行に来てまで暗い話だがこれは勉学よりも大切な事。よく考えて答えてみる」と言った。僕は五分～十分考え答えた。「犯罪者の人の家族があんな思いをするのは可哀想だと思う。犯罪者本人だけではなく、家族まで。

あの卑劣なビラはひどい。窓も割るなんて」そう言い下を向いた。「そうだな。翔太の言う通りかもしれない。世の中はこういうものだ。十人居たら十人の考えがあるが、卑劣だな。」と祖父は言った。「親のしつけが悪いとか、兄弟姉妹が支えていないなどと運転手さんが言ったけど、僕は間違っていると思う」と言うと、「何が間違っていると思う？」と聞かれた。答えようとした時、食事の時間になった。そして祖父が「まだ何日が滞在する。よく考えなさい。」と言った。夕食を食べながらでも僕は心からノリノリになれなかった...あの白髪頭の痩せこけた青白いおばあさんの顔が頭の中から消えなかったからだ。「あぁ僕はこんな幸せな時間をあじわっていいのか...。」

次の日は雨が降っていた。そしてあの家の前をまた通った。濡れながら、また庭を見渡しているおばあさんがいた。その瞬間おばあさんが倒れた！僕は「車止めて！」と叫んだ。そして祖父と一緒におばあさんまで走った。「大丈夫？」と言うと、おばあさんが細い声で答えた。「大丈夫です。」

「はい、どうぞ」と言い持っていたハンカチを渡した。そうすると、「ありがとうございます。ありがとうございます。」とってくれた。

雨ではなくその顔には一滴の涙が流れていた。その時、運転手が来て「行きましょう。相手にしたら駄目です。」と言うので僕は濡れながら大声で叫んだ！「関係ない！大人なのに常識がない！おばあさんには関係ない。困っている人が居れば僕は助ける。あなたは間違っている。加害者の親だけど、今は被害者だ！」と言った。僕は年上の運転手さんに偉そうに言ってしまったので、恐る恐る祖父の顔を見た。そうすると祖父は僕の頭を大きな手で撫でてくれた。そして祖父は「運転はもういい。金はこれで足りるだろ。非情な人間の運転は信用ならん。孫の言う通り。ここから自分で行ける。わしら大人が次の世代を担ってくれる子どもの手本にならんとあかん。あんたは駄目だ！」と言った。運転手さんは下を向いて黙ってそこから立ち去った。

急いでおばあさんの方へ皆で行った。娘さんが出てきて僕たちの顔を見て驚いた様子だった。おばあさんが「事件以来優しさをもったのは初めて。死んでも悔いはありません。」と言った。それを聞き祖父が「あなた達は何も悪くない。だが被害者の事そしてその被害者にも家族が居た事を決して忘れずに生きましよう。死んではいけない。息子のした事に目を背けず、しっかりと生きなさい。そして妹さん、あなたは全く関係ない。しかし兄が犯罪をすると全てを失うでしょう。しかし、人生は長い。下を向かずお天とさんを顔いっぱいにあびなさい。」と笑顔で言うと、二人共大声で泣き出し、そして少し微笑んだ。

旅館に戻った。「加害者の家族は最後には被害者になるのかもしれないな。翔太、今回の事を一生忘れず生きなさい。自分が悪い事をする大切な家族が辛いことになる。そして相手にも大切な家族がいる。今の世の中は人権がない。あると言いながら今回の様な場合はない。テレビなどの報道の仕方が悪い。犯罪は駄目だ。だから絶対に犯罪者にもなるな、そして差別をするな。分かったな。」と言われた。ぼくは、「絶対にしない！そして差別もしない！周りの人の言葉だけを信じるのではなくこの目で必ず確かめるよ。」と言うと家族皆が「翔太は大人より最高だね。子供の綺麗な心を大人になっても忘れなければこの世は最高になるはずだね。」とってくれた。祖父は僕の顔をもう一度撫でてくれた。

今あの家族はどうだろう...一滴の涙よりも「二人の間だけの笑顔を」取り戻して欲しい。

